

再生可能エネルギー基本計画(仮称)策定の趣旨

第1 土地利用の概況

(1) 自然条件

当町は、岩手県最北端に位置し、町内を雪谷川と瀬月内川が流れ太平洋に注がれている。交通事情は、中心部を国道340号、395号が走り、県都盛岡市までは約100km、青森県八戸市へは約25kmの距離にあり、中心部を走る東北縦貫自動車道八戸線により、近隣都市へのアクセスは容易といえる。総面積は約246km²で、約80%が山林原野で占めている。周辺を標高550m～850m程の低い山が囲む丘陵地帯となっており、大半の集落及び田畑が200～300mの標高地帯に集中している。年平均の降水量は1,000mm程と少なく、早魃の被害を受けやすく、夏期の異常低温、日照不足、晩雪、晩霜等が見られる地域となっている。

岩手県軽米町



(2) 特色を活かした土地利用等

当町の豊かな自然を背景とした、自然とレクリエーション施設の「雪谷川ダムフォレストパーク・軽米」が整備されている。この施設は風車、展望台をはじめ、つり橋、木炭展示室、レストラン、野外ステージなどが整備され、春には約15万本のチューリップが咲き、秋には鮮やかな紅葉が楽しめる水と緑が調和した森林公園である。

本町の産業別就業人口は、第一次産業1,750人、第二次産業1,587人、第三次産業2,196人となっている。

基幹産業である農業の耕地面積は、水田920ha、畑1,520haとなっている。主な農産物の生産量は、葉たばこ、ホップ等（平成17年生産量470トン）の工芸作物、米、雑穀等（同2,800トン）、ほうれん草等の野菜（同280トン）、りんご等の果実（同674トン）となっている。畜産業は肉用牛（2,230頭）、鶏（ブロイラー）（7,528千羽）、豚（1,704頭）となっており、ブロイラーは農業生産額の50%強を占めている。

商工業については、食料品等の小規模店が大半を占めている。

観光については、近年観光客数に伸び悩みが見られるが、町の豊かな自然を背景とした、自然とレクリエーション施設の「雪谷川ダムフォレストパーク・軽米」が整備されている。この施設は風車、展望台をはじめ、つり橋、木炭展示室、レストラン、野外ステージなどが整備され、春には約15万本のチューリップが咲き、秋には鮮やかな紅葉が楽しめる水と緑が調和した森林公園である。

また、町内中心部に近いハートフルスポーツランドには、1万4千m²を超える芝桜が



雪谷川フォレストパーク・軽米



ハートフルスポーツランド芝桜

また、町内中心部に近いハートフルスポーツランドには、1万4千m²を超える芝桜が

植栽さおり、5月から6月まで来場者を色とりどりの芝桜が楽しませてくれる場所となっている。

第2 軽米町の基本方向

当町は里山に囲まれた美しい農村景観や自然景観など地域の貴重な財産となっている。一方こうした中において、環景や環境との調和を図りつつ、地域の新たな雇用や町の活性化を図るため、調和のとれた土地利用として、バイオマス発電、風水力発電及び太陽光の活用など再生可能エネルギーの町を推進していく。

(1) バイオマス発電

当町は、全国有数の養鶏(ブロイラー)の生産地であり、この鶏糞を資源として、バイオマス発電施設の誘致を推進する。

また、一般家庭から排出される生ごみの減量化、資源化を図るため、牛糞などの家畜排せつ物などとの複合的な資源として、ガス化発電を推進する。

(2) 風水力発電

(3) 太陽光発電

当町の総面積の約80パーセントを占める山林の有効活用対策として、景観や防災対策などとの調整を図りつつ、太陽光発電施設の誘致を図る。

第3 土地利用構想の実現に向けて

当町は、面積の約80%が山林であり、農林業を基幹産業とする人口10,000人余りの町である。町は基本的な方向として、地域資源循環型農林業を柱として位置づけ振興対策に取り組んでいる。

特にブロイラー産業は、農業生産額の50%余りを占め、重要な産業となっている。

一方において、木材価格の低迷、林業従事者の高齢化、担い手不足などから森林の適正な管理が行われなかったことから、間伐による廃材の利用が課題となっている。

また、ブロイラーの鶏糞については、家畜排泄物の管理の適正化及び利用促進に関する法律に基づき、適正に処理されているが、これを資源として利用していくことが課題となっている。

さらに、家庭から排出されるゴミの処理経費についても、年々増加の傾向にある。

こうした状況の中で、当町は、平成18年度にバイオマスタウン構想を策定し、地域資源のバイオマス利活用を推進していくこととしており、本事業により鶏糞、間伐材などの廃材も家庭用ごみを活用したバイオマス燃焼ボイラー施設及び蒸気発電施設の導入により、熱エネルギー・電力エネルギー化を図り、農業用施設や温水施設、公共施設などに利用することにより、二酸化炭素の削減と地域資源循環の社会を構築していこうとするものである。

併せて、鶏糞と生ごみの堆肥化を図り、バイオマス燃焼ボイラー施設から出る焼却灰とともに、農地へ還元した農産物生産システムを確立していこうとするものである。

こうした取り組みにより、二酸化炭素の削減を図るとともに化石燃料エネルギーに変わる地域資源を活用した安定的な代替エネルギーとしてバイオマスエネルギーを中心とした再生可能エネルギーの町の創造に向けて取り組みを推進する。